

2020年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

次の(設例)を読んで、罪となるべき事実を具体的に指摘して、甲と乙の罪責を述べなさい(ただし、特別法違反の罪を除く。)(配点:100点)

(設例)

甲(31歳,男子,身長168センチメートル,体重65キログラム)は、ギャンブルが好きであるが勝負に弱く借金がかさんでいた。甲は、いわゆる闇金にも手を出し、借入れの総額は500万円を超えていた。そこで、甲は暴力団員の乙(36歳,男子,身長180センチメートル,体重75キログラム)から借金をしたが、返済に窮することもあった。

甲は、これまでの返済については、おおむね遅延することなく返済してきている。しかし、いったん返済を滞らせると、切れやすい性格の乙は、命に対する脅しで返済を強要することがあった。甲は、こうした事態を避けるには、乙を殺害するしかないと考え、以下のような行為計画を立てた。その内容は、体力では真正面から闘うと勝ち目がないので、まず甲の所有する普通乗用自動車(以下「車」という。)を乙に衝突させて路上に転倒させ、弱らせて抵抗力を無くさせた上、その場で直後にナイフで刺し殺そうというものであった。そのため、甲は、刃体の長さ12センチメートルのサバイバルナイフを購入した。

甲が返済期日に振込を怠ると、乙が直ぐにやって来て、甲に対して法定の限度を超える利息分を含む300万円を直ちに支払うよう要求した。甲は、このような大金を一度に返済するのは無理であることに加え、法外な利息請求には応じられない旨伝えた。これに対し、乙は、冷徹なまなざしで甲に対し、甲の車は中古車市場で100万円以上で売却可能であるから、直ちに中古車買取り専門業者を呼ぶので売却するよう求めるとともに、甲に生命保険の申込書を提示し、甲を被保険者、乙を受取人とする手続をとるので、当該申込書にサインするよう求めた。これを聞いた甲は、愛車が売却処分されるだけではなく、命まで奪われると畏怖した。そこで、甲は、愛車の売却処分を免れるためと殺害から免れるためには、前記行為計画に従い行為するしかないと判断した。そして甲は、咄嗟に車を発進させ、約30メートル走行後、Uターンさせ、時速約20キロメートルで乙に向け走行させ、車両前部を乙の脚部目掛けて追突させた。これにより乙は、転倒し、軽傷を負った。甲は、ナイフを取り出し、車を降りようとしたところ、車が乙に衝突したのを目撃した通行人が、「交通事故だ。救急車を呼べ。」等と騒いだため、甲は、車から降りずに、その場から逃走した。